
世界に音楽は鳴り止まない

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界に音楽は鳴り止まない

【Nコード】

N8186K

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

僕達が生きる全ての事へのラブソングです。誰だって上手くないかない人生だし、死にたい時もありますよ。だから、死ぬ前に世界を見つめなくちゃね。自分の詩で僕も見つめます。

死んだ世界の果て

嫌われた日の夜、引つ掻いた手首

『何やってんだっけ？』自分でも分からない

願い込めた宛無き想い、堕ちてった心

『此処は何処なんだっけ？』答えは見つからない

『信念』という古びたコンパスを持つて

歩き回るは、死んだ世界の果て

いつも君が肉眼で眺める景色は

『綺麗』という嘘の洋服を着た

憎むべき果てなのだよ……。

死にたがり達の聖夜、世界の終わり

『今までありがとう』亡くした『全て』に贈ろう

『プライド』という破れてしまった地図を持って

探し求めるは、死んだ世界への道

いつも君が両耳で聞き取る音楽は

『絶望』という真実の光を知る

奇跡的な『希望』なのだよ！

自殺志願者の女の子が屋上から眺める世界
美しいネオン街だ、素晴らしき大衆文化だ
ほら、スクランブル交差点の大画面から

『いつか君の夢は必ず叶うよ。だから人混みに染まれ』
『世界の終わりは光と共に。だから人混みに染まれ』

いつも君が両耳で聞き取る音楽は

『絶望』という真実の光を知る

奇跡的な『希望』なのだ！

いつも君が肉眼で眺める景色は

『綺麗』という嘘の洋服を着た

愛すべき世界なのだよ……。

真実の光を照らす、死んだ世界の果てなのだよ

奇跡的な希望を鳴らす、死んだ世界の果てなのだよ

幻の夢

子供の頃に抱えていた輝かしい夢

『叶わない』と勝手に決め付けてゴミと共に捨てた

子供の頃に抱えていた愛しい想い

『叶わない』と勝手に決め付けて別れも無しに捨てた

くだらない夢を見てみたい

後悔なんてしないくらい無茶な夢を

諦める事を悩めるなら、それはきつと叶うよ

昨日の夜見たヒーローになる物語

『諦めるな』と台詞を言つて、目を覚まして朝と出逢う

くだらない夢を見てみたい

忘れる事なんて出来ないくらい壮大な夢を

すぐ消えちゃう夢なら、それはきつと叶うよ

僕が子供だった時に、大人にそう言つて欲しかった

『その夢はきつと叶うよ』って嘘を交えた肯定の言葉を

僕が子供だった時に、大人にこう言つてみたかった

『あなたも夢を見たのでしょ』と、誰もが知つてる希望の光を

みんなに確かめてみたい

僕達が抱えていた夢はくだらないモノじゃない

『君の夢はきつと叶うよ』

大人になつてから後悔しようよ

『君の夢はきつと叶うよ』
大人になっても、また見ようよ

天国の空席

眠気を忘れた深夜二時に、喋り続けるテレビ
世界から逃げた僕の部屋に広がる溜め息の洪水
この場所から見える景色、色の無い心の死体

君が疲れたのなら、この手を貸すよ
僕は疲れたからさ、その手を貸してよ
手と手は繋がり合う、汚れた事実を持つて

生き延びてきた事を全部『正しい』のだと言えるでしょうか？
探した『幸せ』と『愛』 それら全てこの手は出逢ったでしょうか？

寒気を抱えたカラッポの心、求め続ける温もり
世界を相手に叫んだ僕の詩の意味は果ての彼方
この場所から見える景色、価値の無い想いの死骸

君が隠れたのなら、見つけ出すよ
僕が隠れたのなら、見つけ出してよ
目と目で語り合う、偽りの『愛』を知って

無くしてきたモノを全部『間違い』なのだと言えるでしょうか？
殺した『幸せ』と『愛』 それら全て隠れた底で見つけたでしょうか？

『正しい』とは、世界全てを巻き込む程
この手で掴んできた『平和』と同じ意味でしょうか？
『間違い』とは、世界全て巻き込む程
この目で眺めてきた『戦争』と同じ意味でしょうか？

手と手で繋がり合う、汚れた事実を持って
目と目で語り合う、偽りの『愛』を持って

出逢えた『悲しみ』や『喜び』を飲み込める程、僕等は感情的で
しょうか？

見逃した『苦しみ』や『偽り』を噛み砕ける程、僕等は観照的で
しょうか？

探した『幸せ』と『愛』 それら全てこの手は出逢ったでしょうか？
殺した『幸せ』と『愛』 それら全て隠れた底で見つけたでしょう
か？

天国の空席はいつも僕達を待って、世界に光を照らすよ
天国の空席はいつも僕達を待って、世界に闇を落とすよ

狂おしい程の愛情を君へ

君が見詰める先の景色を

僕も見てみたい、今を共有したい

君が歩ける道の延長線を

僕も見てみたい、先を共有したい

君が笑える日々の中心に

僕も居てみたい、笑顔を共有したい

君が泣ける日々の中心に

僕も居てみたい、涙を共有したい

『一人じゃ生きられない』という生命論を否定したいと君が言うなら

僕はこの生命論を精一杯に肯定したい

『寂しい、という言葉は何故あると思う?』

ああ、狂おしい程の愛情を君へ

『僕は一人じゃ生きられない』

これは僕が君へ贈る生命論だよ

君が堕ちる底の世界に

僕も行ってみたい、孤独を共有したい

君が沈む底辺の世界に

僕も行ってみたい、その線に僕はなりたい

『人は愛を知って生きる』という生命論を君が解らないと言うなら

僕はこの生命論の意味を君に教えよう

『寂しさを携え、誰かを必要とする為だよ』

ああ、狂おしい程の愛情を君へ
『孤独を共有する意味とは』
これは僕が君へ贈る問題文だよ

僕達が備え付けた感情全てに意味があるのだろう
僕達が備え付けた愛情全てに意味があるのだろう

『寂しい』と思う感情の意味は『一人で生きない』為だろ
『愛しい』と思う感情の意味は『誰かを必要とする』為だろ
『楽しい』と思う感情の意味は『孤独の存在を知る』為だろ
『嬉しい』と思う感情の意味は『孤独を否定する』為だろ

ああ、狂おしい程の愛情を君へ
『僕が君を愛する意味とは』
これは僕が生きている生命論だよ

ああ、狂おしい程の愛情は僕達が生きる原動力だよ
ああ、狂おしい程の愛情は僕達が定めた生命論だよ

ロックンロール part 1

世界に疲れた僕は、フラフラと歩き出して

世界に飽きた僕は、しらじらしく歩き出して

『くだらない日常』から逃げた『つまらない日常』

世界に病んだ僕は、イライラと爪を噛んで

世界に懲りた僕は、そそくさと爪を噛んで

『つまらない日常』から逃げた『何も無い日常』

暇潰しの新譜レコード 『くだらない日常』を引き裂いて

ロックンロール あの衝撃が僕の世界を壊していく

ロックンロール あの衝撃が僕の世界を生かしている

世界を恨んだ僕は、一人でイヤホンを構える

世界を呪った僕は、一人でイヤホンを構える

待ち焦がれた新譜レコード 『つまらない日常』を塗り潰して

ロックンロール あの衝撃が僕の世界を殺していく

ロックンロール あの衝撃が僕の世界に光を照らす

くだらない日々、つまらない日々

生きる意味なんて分からぬまま

僕の世界をぶっ壊した、僕の世界を塗り替えた

あの衝撃のロックンロール

今もイヤホンから流れてくる 今も僕に衝撃を与える

ロックンロール あの衝撃が僕の世界を生かしている
ロックンロール あの衝撃が僕の全てを、そうさ救ったんだ

ロックンロール 『何も無い日常』を貫くあの衝撃をくれ
ロックンロール 『何も無い日常』を殺すあの衝撃をくれ

絵の具の希望

くだらない朝、寝るだけの夜、そんな冴えない毎日を
絵筆を使い、絵の具の希望、僕等が塗り替える世界

沈まない想い、積み上がった願い、そんな後悔の毎日を
ペンキを使い、色彩の夢、僕等が塗り替える世界

『別れだって、別にいいさ。元気で暮らせよ。また会おう。』
過去は見守るだけ、また会えないから
この毎日を愛さなければ駄目じゃないか

いつか、ぬるい毎日が目の前に横たわってたら
間違えなんて無い、やるべき事をやれ
恐ろしい未来を避けて崩す過去
ふざけるな、そこには思い出が積もってんだ

新しい朝を迎える事がどれ程怖いことだと思ってる？
悩ましい夜に出逢えた『絶望』は何十年とすれば『希望』となる

過去は忘れていくだけ、思い出せないから
毎日の『今日』を愛さなければ駄目じゃないか

いつか、ぬるい毎日が目の前に横たわってたら
間違えなんて無い、やるべき事をやれ
恐ろしい未来を避けて崩す過去
ふざけるな、そこには思い出が積もってんだ

くだらねえさ、それもそうさ

怠い日常、仕方ないさ、認めようぜ
くだらねえさ、それもそうさ
温い日常、仕方ないさ、認めようぜ

僕等が汚していく世界
僕等が塗り替える世界

いつか、ぬるい毎日が目の前に横たわってても
ふざけるな、そこには思い出が積もってんだ

今日が終わり

いつか終わる旅だって分かってるから、頑張ろう、嫌味吐いてさ
全てが終わる瞬間になって知るのなら、やめておこう、手首裂く事

くだらない事が重なって、救えない僕が成り立った
生きる為に生きにくい世界に生きていく

僕と世界が繰り広げる、中身の無い静寂の戦争

死に事語る自殺志願者達の今日が終わり

嫌気射してだるく生きる僕の今日が終わり

世界は今日で終わり、僕は今日で終わり

いつか終わる旅だって分かってるから、走ろう、世界の果てへ
全てが終わる瞬間が『今日』だってなら、叶うよ、君達の夢が

つまらない日々が連なって、救えない僕が成り立った

殺す為に殺されない様に殺し合う

君と世界が繰り広げる、終始の無い狂氣的戦争

綺麗な街を眺める女の子の今日が終わり

毛布に包まって眠る僕の今日が終わり

世界は今日で終わり、君は今日で終わり

戦場に血を流して、『命の証明』を知った

頬を伝う塩水が戦死した少女を濡らしていくよ

今日が死ぬ、明日が生まれて、今の僕も死ぬ

僕と君と世界が繰り広げる、生命と生物を殺す戦争

いつか終わる旅だつて分かつてるなら、今日を生きる、そりゃそう
だろ

全世界が求め続けた日々、今日が終わり

全世界が殺し続けた命、今日が終わり

生命は今日で終わり、生物は今日で終わり

いつか必ず終わっていく、君の夢は叶うよ

いつか灰となり消えていく、君の夢は叶うよ

今日が終わり、かも

最悪なる死刑囚の唄

『始まって』しまった僕等の命は、断りもなく『終わって』しまう
「絶対にこれ買い」っていう『絶対』は意味が無いが
僕達の命が終わる事は間違いなく『絶対』なのだ

『亡くなって』しまう生命の美は、誤りもなく『無くなって』しまう
「無駄なモノなんて一つもない」なんて『無駄』なんじゃないの？
僕達が忘れてしまう事は何かしら『無駄』ではない

生きる事に疎いから、死ぬ事ばかり考えて寝る
眩しい朝は最悪な闇、それは僕に降り注ぐ『天罰』の様

虫を殺して、花を踏みつけて
裁かれない命がイマ此处にあるよ
神様でも、仏様でも

見逃された僕達が本当の『死刑囚』なのでしょうか

『授かった』心臓は左胸でリズムを刻む、右胸は『孤独』を感じる
空洞

「そこを満たす為の愛」を死刑台から見下ろす最愛の唄
僕達が抱える空洞は埋まる事があるのですか？

他人事にしたいから、独り言は空気と語る
寂しい夜は最高の闇、それも僕に降り注ぐ『天罰』の様

君を殺して、僕を狂わせて
憎まれない世界は何処にもないよ
神様でも、仏様でも

権力を与えられた僕等が『死刑囚』なのでしょいか

『終わる』事は全ての生物、物事、同じ運命なのに
裁かれない僕の心で鳴り止まない『音楽』があるよ
『終わる』事は全ての幸福、不運、同じ終焉なのに
憎まれた世界の中で鳴り止まない『音楽』があるよ

いつの日も、いつの時も、いつの時代でも

君を殺して、僕を狂わせて

裁かれない命に名付けられた『死刑囚』は嫌でしょうか？

虫を殺して、花を踏みつけて

裁かれない命がイマ此処にあるよ

神様でも、仏様でも

見逃された僕達が本当の『死刑囚』なのだろうか

最愛なる死刑囚達へ、命を終わりを歌う
最愛寝る死刑囚達へ、命の終わりを綴る

ロックンロール part 2

ああ、世界中で流れる悲惨なニュースも見慣れたから
今更、誰か死んだって驚く事は一つもないよ
だって、僕には関係ないさ、君には関係ないさ
そうやって、回っていく地球が何故かすごく嫌いだ

ああ、子供達がライフルを持って空を見上げる事
今更、そんな写真見たって何もする事はないよ
だって、僕には関係ないさ、君には関係ないさ
そうやって、流れていく時代が僕はすごく嫌いだ

救いようが無いなんて前から気付いているのに
僕は何かに救いを求めて、何故か生き延びている

それは……。

世界中の戦争も愛情も全て歌い上げてしまう音楽があるから
「何かが変わるかもしれない」って本気で思える音楽があるから
今も爆音で響くよ、僕の命を救った希望の音楽が
あの光を、あの闇を、世界中にも鳴らしたい

あの、ロックンロール

ああ、子供達を立派にする為に励んでいる大人達
「夢は叶うよ」それと同時に「現実を見なさい」
そんな嘘が転がり続ける世界の中で何を頼りに生きればいいのか？
だから、希望の光が、絶望の光が、僕を大人にしてくれる

どうしようもない世の中だって皆も承知しているけど
それが間違いだって事を感じていたい為に

だから……。

世界中の殺戮も平和も歌い上げてしまふ音楽があるから

「世界が変わるかもしれない」って本気で思える音楽があるから
今も爆音で響くよ、僕の命を救った希望の音楽が

あの光を、あの闇を、世界中にも届けたい

あの、ロックンロール

血を流す事が『平和』だとは思えないだろ？

それでも世界は子供達の死体を無言で眺め続けるよ

『平和』って言葉に、『正解』って言葉に縛られた世界なんだ
それでも、世界に正面から向き合える希望の光がある

だから……。

世界中の戦争も愛情も全て歌い上げてしまふ音楽があるから

「何かが変わるかもしれない」って本気で思える音楽があるから
今も爆音で響くよ、僕の命を救った希望の音楽が

あの光を、あの闇を、世界中にも鳴らしたい

あの、ロックンロール

世界中に希望の光を

世界中の子供も大人も全てに光を与える希望の音楽があるから
この世界をいつまでも照らしてくれる希望の音楽があるから
爆音で鳴り続ける、世界中に鳴り続ける、あの救いの光を

また僕に与えてください。今、爆音で鳴らすよ

あの、ロックンロール

世界中に、君の心に、僕の心に
爆音で流してくれよ

雨と唄うように

「今日は一日、雨でしょう」と朝のニュースで言っていた
それを聞いた君は一体どんな気分になるのだろうか
憂鬱だろ？ 最悪だろ？ 雨なんて嫌いだろ？

「私は貴方が嫌いな」と最愛の少女が言っていた
それを聞いた僕はどうして笑顔を浮かべるのだろうか
憂鬱だよ 最悪だよ 僕が嫌いなのは雨なのに……。

太陽は夜に姿を消して、月は朝方そつと消える
無くなる事に気付かない様に、僕もそのうち消えていくのだろ

『私がいると世界は憂鬱』君なら何を思う？
本当はあなたがいるから最悪なんじゃない
僕自身が憂鬱だから、君自身が憂鬱だから

雨と唄うように、生きていこう

「来週はずつと雨でしょう」と週末のニュースが言っていた
それを聞いたから君は屋上に向かったのですか？
違うだろ？ 間違いだろ？ 雨だからって死なないだろ？

鳥は悲鳴を高らかに上げて、僕等は笑い声を響かせる
雨を嫌って、落ち込んだ降りをする事に慣れただろ？

『私がいると世界が憂鬱』君なら何を思う？
世界はあなたがいるから生きていられる
僕自身が憂鬱だから、君自身が憂鬱だから

雨と唄うように、堕ちて逝こう……。

『雨が降れば憂鬱』なんて誰が決めたルールだ？
確かに濡れるよ、遊べないよ

それでもさ、本当に憂鬱なのは一体誰だ？

『私がいると世界は憂鬱』君なら何を思う？
本当はあなたがいるから最悪なんじゃない
僕自身が憂鬱だから、君自身が憂鬱だから

雨と唄うように、生きていこう

「今日は一日、雨でしょう」お互い憂鬱だな
雨と唄うように、生きていこう
「来週はずっと雨でしょう」お互い憂鬱だな
雨と唄うように、生きていこう

僕が一番嫌いな雨の日でも、心が晴れる事がありますように
憂鬱だよ 最悪だよ でもね、雨と唄うように、生きていく

茜色の空

あの子が『死にたい』と呟いた今日、綺麗な茜色の空を見た
『すごい綺麗だね』って僕は何度も言っただけなのに
負けなくらいに『死にたい』と呟く姿になんとか笑えた

僕達が生きている世界は、綺麗な茜色に染まるのに
僕達が生きている世界は、綺麗な死に事を語るよ

『ハロー。君が死にたいって言ってる

今この瞬間に死んだ僕の友達がいるんだよ』

見てよ、この綺麗な茜色の空を。僕達を嘲笑う様に広がってるだろ？

『繰り返される生活に何の意味があるのだろう……』

そう思う事は間違いじゃない。死にたい時だってあるよ

ハロー。グッバイ。昨日までの君。あんなに『死にたい』って言ったのに

また今日も君は茜色の空の下で『死にたい』って言うんだね

それは生きてるって事だね。僕はまた笑うよ

僕達が生きている世界は、綺麗な茜色に染まるのに

僕達が生きている世界は、華麗な嘘で幻の世界を作った

あの子が『死にたい』と呟いた今日、僕はまた茜色の空を見ている
『ハロー。死にたいの生命達へ。』

君達が死にたいって呟いた今日を生きたかった命がいたよ』

君のすぐ側で、僕のすぐ側で

サンキュー・ミュージック

今まで僕を支えてきた歌詞達が、永遠に輝きます様に……。
今まで僕を助けてきたメロディーが、永遠に響きます様に……。

今も心で鳴り続けるロックンロール
世界が綺麗なら、皆が笑顔なら
少しは平和に見えるだろうに……。

未来の僕の為に、過去の僕の為に
絶望の光を、サンキュー・ミュージック
死にたがりの僕の為に、今の僕の為に
希望の光を、サンキュー・ミュージック

死ぬまで心は一生不安、助けようが無いよ
死ぬまで僕は普通に狂う、助けようが無いよ

今も心を痛め付ける情報化社会
世界は汚いし、皆は嘘つきだし
正常に狂って地球は回る。でも……。

嫌な世界の為に、嫌な生命の為に
絶望の光を、サンキュー・ミュージック
くだらない生活の為に、死んだ少女の為に
希望の光を、サンキュー・ミュージック

嫌な事なんか語りきれない程、積み重なった
何もかも捨てたくなるくらい堕ちていった
心の傷も手首の傷もあれからこんなに増えた

毎日が自殺予定日だって日記にも記した

でも、僕も彼女も今を生きているんだよ
死に事をずっと垂らして生きているんだよ

今も心で鳴り続けるロックンロール

世界に愛を、僕等に愛を

今、死ねない魔法を君にかけるよ

未来の君の為に、過去の君の為に

絶望の光を、サンキュー・ミュージック

死にたがりの君の為に、今の君の為に

希望の光を、サンキュー・ミュージック

いつまでも僕を救う希望の光を、サンキュー・ミュージック

今まで僕を支えてきた歌詞達が、永遠に輝きます様に……。

今まで僕を助けてきたメロディーが、永遠に響きます様に……。

救いようの無い世界の終わり

今だってライフル持った少年は震えながらも戦っているのだから？
その事に気づいてるのに君と僕は今何をしているんだ？

「もう死にたい……」と呟いた少女は世界にどんな仕打ちをされたのか

血を失う程の傷じゃないだろ？ 屋上から見える景色は案外綺麗だろ？

救いようの無い僕達は死に事を語り

救いようの無い世界で怯えて生きてる

どっかの誰かが死んでも悲しくなんて一つもないんだからさ

君のだって、僕のだって、世界に大切な命じゃないんだろ？

「もう死にたい……」と呟いた少女は絶望を嫌って希望を求めた
絶望が無ければ希望は無いだろ？ そんな事説明無しで分かれよ

救いようの無い僕達は繰り返す日常を殺し

救いようの無い世界に唾を吐いて生きてる

戦争が正しいなんて誰が決めたのか、戦争が間違いとは誰も決めて
ない

君が死ぬのは当たり前なんだから、時と場合はいつでも此処だよ
今だって、明日だって、死ぬ事には何の反論も出来ないだろ
だから、今だって、明日だって、死ぬ時でもない

説明無しで分かれよ

ああ、言葉にするのが難しい現代の世界

救いようの無い姿を救いたんだよ……。

ああ、言葉にしても響かない現代の世界
救いようの無い少女に届けよ

僕のメッセージ

ああ、汚れた君と汚れた僕が綺麗に光る汚れた世界
ああ、死にたがりの少女へ、救いようの無い少女へ

届けよ、僕のメッセージ
伝えよ、僕のメッセージ

虹色の唄

『死んだ』世界が見れるなら彼女は何をするのだろうか
屋上から見渡す世界も綺麗な景色に見えるのかな

『死んだ』未来が見れたなら彼女は何をしたのだろうか
切り刻んだ手首も心に傷を残して治るのかな

自殺癖がある彼女を救う魔法をイマ唱えるよ
屋上で見た茜空の様に、『生命の美』を、光る愛を

生命すべてが抱える憎しみの唄
だから世界に音楽は鳴り止まない
僕達が殺していく鳴き声の唄
だから世界に音楽は鳴り止まない

『綺麗』な世界に住めたのなら何を思うだろう
黒く染まつた心は真っ白に循環するかな
『綺麗』な世界を見れたのなら何を思うだろう
屋上から眺める景色、本当に綺麗なのはどっちかな

情けない精神の僕を救う魔法をイマ唱えるよ
死んだ友達が教えてくれた『生命の美』を、光る愛を

生命すべてが抱える悲しみの唄
だから世界に音楽は鳴り止まない
僕達が鳴らしていく悲鳴の唄
だから世界に音楽は鳴り止まない

自殺した少女は何も聴こえていなかっただけ

眺めていた僕が何も鳴らさなかっただけ

もう、死なないで

イマ君に死ねない魔法を唱えるよ

生きる希望と絶望を綴る詩を届けよう

生命すべてが鳴らし続ける

生命すべてに聴こえ続ける

虹色の唄を……。

自殺願望を抱える少女へ

これは君を苦しめる魔法の唄だよ

世界に立ち向かう、それが難しいから

世界に音楽は鳴り止まない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8186k/>

世界に音楽は鳴り止まない

2010年10月8日12時45分発行